

科目番号		53001	分類	共通科目		履修者		看護科学コース (看護管理者プログラム)		学年	
科目名	看護理論 (Nursing Theory)									1	
										配当セミナー	
										前期	
担当者	○高橋 智子			区分	必修	単位	2	時間数	30		
授業の概要および目標							学位授与の方針との関連				
看護学の発展の中で、看護理論がどのような経緯で開発されてきたかを概観したうえで、主要な看護理論の特徴や限界を検討すると共に、自らの経験と照らして看護の実践・教育・研究における看護理論の適用と課題を考察する。 1. 看護学の発展と共に、看護理論がどのような歴史的経緯で開発されたのかを理解する。 2. 看護理論を評価する枠組みを理解し、この評価枠組みを用いた分析を通し、主要な看護理論の特徴や限界を検討する。 3. 自らの経験に照らして、それぞれの専門領域の実践・教育における看護理論の適用と課題を考察する。							○	1. 看護管理学の継承・発展を担うために必要な研究能力			
							○	2. 臨床現場で「つかえる」エビデンスを「つくり」「つたえる」ことができる能力			
							○	3. 看護管理者として、臨地においてリーダーシップを取りながら、エビデンスに基づく看護マネジメントができる能力			
								4. ヒト・モノ・カネ・情報等のシステム的管理能力の向上			
							○	5. 病院管理者の一員として管理能力を養い、病院経営に積極的に参加する姿勢			
授 業 計 画											
回		内 容								担当教員	
第1回 第2～5回 第6～10回 第11～15回		ガイダンス 看護理論の発展の歴史 看護理論とは 看護理論の定義、理論の構成要素、理論の範囲 看護理論の分析と評価の理解 主要な看護理論の分析と評価 主要な看護理論の看護実践・教育への理論の適用 主要な看護理論の活用に向けた課題								高橋	
事前・事後 学習		事前学習：事前配付されたプレゼンテーション資料に目を通し、ディスカッションの準備をする。 事後学習：資料の加筆・修正、ディスカッションのまとめを行う。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考にに取り組むこと。									
評価の方法		プレゼンテーション40% プレゼンテーションの参加度20% 課題レポート40% フィードバック（意見交換・プレゼンテーションの総評、課題レポートの総評等）は適宜行う。									
◎テキスト		◎筒井真優美編(2020). 看護理論家の成績と理論評価 第2版. 医学書院.									
参考図書 ・資料等		・Meleis, AI(2017)/中木高夫監訳(2021). セオレティカル・ナースィング 原著第6版-看護理論の開発と進歩. 看護の科学社 ・Meleis, AI(2017). Theoretical Nursing: Development and Progress (6 th Ed). Lippincott Williams & Wilkins. ・Fawcett, J.(1993)/大田喜久子・筒井真優美監訳(2008). フォーセット看護理論の分析と評価 新訂版. 医学書院. ・Walker, L.O & Avant, K.C.(2018) Strategies for Theory Construction in Nursing(6 th Ed). Pearson. ・Chinn, P.L & Kramer, M.K.(2021) Knowledge Development in Nursing: Theory and Process (11 th Ed). Elsevier. ・その他：看護理論家による著書									
備 考		本授業はゼミナール形式で行う。 オフィスアワーについては、学生便覧を参照して教員と事前に日程を調整する。 授業方法の詳細については、ガイダンス資料を参照する。									